

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

タイ語のヴォイスとその周辺 Voice and related matters in Thai

笠作 記史
Norifumi Kasasaku

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿の目的は、特集「ヴォイスとその周辺」(『語学研究所論集』第17号, 2012, 東京外国語大学)に対し、25個の例文に対するタイ語のデータを提供することである。

Abstract : The goal of the paper is to provide the special cross-linguistic study on ‘Voice and related matters’ (Journal of the Institute of Language Research 17, 2012, Tokyo University of Foreign Studies) with 25 data in Thai .

キーワード：タイ語、ヴォイス、受動、使役
Keywords: Thai language, voice, passive, causative

1. はじめに

本稿ではタイ語のヴォイスとその周辺についてのデータを記述する。例文の作例はコンサルタントのT.S氏(1983年生まれ、サラブリー県出身)に依頼し、一つの日本語文につき複数の表現が可能なものに関してはそれらのニュアンスの違いも適宜インタビューした。タイ語の音韻表記はウィッターヤーパーンヤーノン(2015)に従う。

2. タイ語データ

4-1-a (風などで) ドアが開いた。

(1) pratuu pàət yùu
door open exist

(2) pratuu ?âa yùu
door open exist

4-1-b (彼が) ドアを開けた。

pàət pratuu
open door

自他両用の動詞/pàət/と/?âa/「開く/開ける」では自他の対立は統語的に表される。自動詞として用いられる場合にはSVの語順となり、他動詞文では(S)VOの語順となる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

4-1-c (入り口の) ドアが開けられた。

(1) pratuu (thaaŋ khâw) thùuk pèət
door (path enter) PASS open.Vt

(2) thaaŋ khâw pèət yùu
path enter open.Vi exist

(3) mii khray pèət pratuu thaaŋ khâw thín wáy
exist someone open.Vt door path enter put AUX

/thùuk/はもともと「当たる」という意味で、受身の表現にも使われる。4-1-c(1)のような/thùuk/を用いた構文は、タイ語では「被害を受ける」という文脈でのみ受身表現が使われる(ウィッタヤーパン ヤーノン 2017)。「ドアが開けられた(開けられて、開いている)」ことを表す場合は、4-1-c(2)のような自動詞文や、4-1-c(3)のように「/mii/+不定人称/khray/」で存在の能動文で表す方がより自然である。

4-1-d ドアが壊れた。

pratuu [phaŋ/sǎa]
door break

/sǎa/は自動詞として、/phaŋ/は自他両用の動詞としても機能する。

4-2 私は(自分の)弟を立たせた。

(1) chán [khǎw/bòok/sàŋ/baŋkháp] hây nóŋ yuuu khún
1SG request/tell/order/force CAUS little brother/sister stand DIR.up

(2) chán anúyâat hây nóŋ yuuu
1SG permit CAUS little brother/sister stand

/hây/が使役構文を作る。ここでは/nóŋ/が被使役者(Causee)である。また、/hây/は授与を表す動詞としても用いられる。4-2(1)では、立つなど行為を「命じる」ことを表すために用いる動詞はいくつかあり、/khǎw/</bòok/</sàŋ/</baŋkháp/の順に被使役者に対する強制度合いが大きくなる。4-2(2)の/anúyâat/は「許可する」という意味の動詞であり、「(立ちたがっている)弟に立たせる」という許可使役を表す。

4-3 私は(自分の)弟に歌を歌わせた。

(1) chán [khǎw/bòok/sàŋ/baŋkháp] hây nóŋ róŋ phleeŋ
1SG request/tell/order/force CAUS little brother/sister sing song

(2) chán [anúyâat/yɔɔm] hây nóŋ róŋ phleeŋ
1SG permit/allow CAUS little brother/sister sing song

「頼む、命じる」という意味の動詞+/hây/」の後に、被使役者の行為を描写した文を SVO の語順で埋め込む。

4-4-a (遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供にパンを買いに行かせた。 【強制使役と許可使役】

mêe [bòk/sàŋ/baŋkháp] hây lûuk pay súuu khanǒmpan
mother say/order/force CAUS child DIR.go buy bread

構文は通常の使用文と変わりはない。

4-4-b (遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた。

(1) mêe (yɔm/anúyâat) hây lûuk pay lèn
mother accept/permit CAUS child DIR.go play

(2) mêe camcay hây lûuk pay lèn
mother unwilling CAUS child DIR.go play

4-4b(1)と4-4b(2)の違いは、母親が仕方なく許可したかどうかである。4-4b(2)は、4-4b(1)と比較すると、母親が実際は子供を遊ばせたくないというニュアンスが強く出る。

4-5-a 私は弟に服を着せた。 【他動詞による表現と使役の違い、直接の行為か間接の行為か】

chán sŭam sây súaphâa hây nóŋchaay
1SG put on wear clothes CAUS little brother

4-5-b 私は弟にその服を着させた。 【他動詞による表現と使役の違い、直接の行為か間接の行為か】

chán [bòk/sàŋ/baŋkháp] hây nóŋchaay sŭam sây súaphâa
1SG tell/order/force CAUS little brother put on wear clothes

4-5-a のように直接手を下して服を着せる場合は動詞句の後に行為の対象を/hây/で標示する。また、その行為を間接的に促した場合は、「言う、命じる等の意味を持つ動詞+ hây+被使役者+被使役者の行為を示す動詞(句)」の構文で表現される。

4-6 私は弟にその本をあげた。 【(物の)授受動詞は恩恵の授受においても助動詞的に使えるか】
【やりもらい、(話者から見ての)授恩恵と受恩恵の違い】

(1) chán hây năŋsŭuu lêm nán ([kêe/káp]) nóŋ
1SG give book CLF that PREP little brother/sister

(2) chán dâu hây năŋsŭuu lêm nán ([kêe/káp]) nóŋ
1SG PAST give book CLF that PREP little brother/sister

/hây/は使役の標識としても用いられるが、ここでは授与動詞として機能している。/hây/の直後に直接目的語が来る。/kêe/もしくは/káp/を用いると文語的な表現となる。

4-7-a 私は弟に本を読んであげた。 【(物の)授受動詞は恩恵の授受においても助動詞的に使えるか】
【やりもらい、(話者から見ての)授恩恵と受恩恵の違い】

(1) chán ʔaan năŋsŭuu hây nóŋ faŋ
1SG read book CAUS little brother/sister listen

(2) chán ?àan nǎŋsǔuu hây nóŋ faŋ
1SG read book CAUS little brother/sister listen

「私が本を読む」の後に使役標識/hây/が続き、その後に「弟が聞く」という文を埋め込む。つまり、タイ語では「弟が(読み聞かせを)聞くようにする(目的の)ために私が本を読む」という表現になる。

4-7-b 兄は私に本を読んでもくれた。 【(物の)授受動詞は恩恵の授受においても助動詞的に使えるか】 【やりもらい、(話者から見ての)授恩恵と受恩恵の違い】

phǐchaay ?àan nǎŋsǔuu hây faŋ
older brother read book CAUS listen

4-7-a と同じ構文になる。埋め込み文の中の主語がなくても「私に」というニュアンスを伝えることができる。

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった。 【テモラウ】

(1) mɛ̃ tət phǒm hây chán
mother cut hair give 1SG

(2) chán khǒ̃ hây mɛ̃ (chúay) tət phǒm hây
1SG request CAUS mother (help) cut hair CAUS

4-7-c(1)は単に事実の描写であり、一方 4-7-c(2)は、髪を切ってくれる人への依頼のニュアンスが強くなる。

4-8-a 私は(自分の)体を洗った。 【再帰】

chán láaŋ tua
1SG wash self

他動詞文と同じ形式になり、/tua/「自身」を目的語として取る。

4-8-b 私は手を洗った。 【再帰】

chán láaŋ muuu
1SG wash hand

4-8-c 彼は手を洗った。 【再帰】

kháw láaŋ muuu
3SG wash hand

4-8-b,c とで、洗う対象を目的語として取るのは 4-8-a と同様である。形態類型論的に孤立語であるタイ語では、主語が変化しても動詞(句)に変化はない。

4-9 (自分のために) 私はその本を買った。 【自利態】

(1) chán súuu nǎŋsúuu lêm nán maa (wáy ʔaan ʔeeŋ)
1SG buy book CLF that DIR.come (AUX read myself)

(2) chán súuu nǎŋsúuu lêm nán maa (ʔaan ʔeeŋ)
1SG buy book CLF that DIR.come read myself

自利的な表現は、(/wáy/) + 動詞 + /ʔeeŋ/ 自分で~する、という表現を用いて補足情報的に表される。

4-10 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた。 【相互】

(1) phûakkhâw [tòy/tii] kan
3PL beat together

(2) phûakkhâw rum [tòy/tii] kan
3PL crowd beat together

/kan/ 「互いに」を動詞句の後に用いて相互態的な表現ができる。

4-11 その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った。 【衆動】

[khon làw nán / phûakkhâw / khon klùm nán] pay nay muaŋ (dúay kan)
[person CLF that / 3PL / person group that] DIR.go PREP.in town (PREP together)

「皆」で行くことを強く明示する場合は動詞句の後に/dúay kan/ 「共に」という句を用いる。

4-12 その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう)。 【自発】

(1) nǎŋ rûaŋ nán tham chán [róŋhây / námtaa lǎy]
movie CLF that do 1SG [cry / tears flow]

(2) nǎŋ rûaŋ nán duu léew róŋhây
movie CLF that see ASP.PRF cry

(3) nǎŋ rûaŋ nán pen nǎŋ nâa sâw
movie CLF that COP movie worth sad

(4) nǎŋ rûaŋ nán nâa câ? sâw
movie CLF that worth AUX.INFER sad

4-12(1)(2)は、「その映画を見ると私は泣く」という個別の行為を表し、4-12(3)(4)は、/nâa/ 「～に値する」によって、「泣くに値する映画だ」という映画に対する評価を表す表現である。タイ語では、自発の文を何か特定の構文や標識で表すわけではない。

4-13-a 私は卵を割った。 【意志／無意志】

chán tòok khây
1SG break egg

意図的に割る場合は他動詞を用いて無標の形式で表される。

4-13-b (うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった。 【意志／無意志】

(1) chán phlǎə tham kêew tɛk
1SG unguarded do cup break

(2) chán tham kêew tɛk pay
1SG do cup break DIR.go

(3) chán tham kêew tɛk à
1SG do cup break PTCL

「うっかり割る」という無意志による行為は、/phlǎə/「うっかり～する」という動詞や過失を表す/pay/(原義は「行く」)、または/a/という驚きを示す語用論的小辞で表すことができる。

4-14-a きのお私はコーヒーを飲みすぎて(飲みすぎたので)眠れなかった。 【随意の不可能と不随意の不可能】

múawaan chán [kin/dúum] kaafɛ yó? pay kóləy nɔn mây ləp (taa khaŋ)
yesterday 1SG eat/drink coffee much DIR.go CONJ sleep NEG sleep (eye interrupted)

/nɔn mây ləp/(寝る+否定辞+寝付く)「寝ようとしたけど寝付けなかった」という結果キャンセルの構文を取り、不随意の不可能を示す。

4-14-b きのお私は仕事がたくさんあって(たくさんあったので)眠れなかった。 【随意の不可能と不随意の不可能】

múawaan chán mii ŋaan yó? kóləy mây nɔn
yesterday 1SG have work much CONJ NEG sleep

「否定辞+寝る」で、仕事があったため、敢えて寝なかったという随意の不可能のニュアンスが出る。

4-15 私は頭が痛い。 【全体と部分・主体・一時的】

chán pùat hǎa
1SG pain head

4-16 彼女は髪が長い。 【全体と部分・主体・恒常的】

(1) thəə phǎm yaaw
3SG hair long

(2) thəə pen khon phǎm yaaw
3SG COP person hair long

4-15 と 4-16 の例文において、[全体+部分+状態]の語順でいわゆる「象は鼻が長い」構文を表す。状態が恒常的か一時的かで構文の形式は変わらない。

4-17-a 彼は(別の)彼の肩をたたいた。 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

kháw tòp [lày/bàa] phûuchaay (iik khon)
3SG pat shoulder man (another person)

4-17-b 彼は(別の)彼の腕をつかんだ。 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

kháw [càp/khwáa] khěen phûuchaay (iik khon)
3SG capture/grab arm man (another person)

「ある人の(体の一部)をたたいた/つかんだ」と言う表現は、日本語などと同様に動作の対象が「ある人の腕/肩」になる。

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た。 【知覚構文】

chán hěn kháw kamlaj maa
1SG see 3SG PROG DIR.come

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている。 【知覚構文】

chán rúu wâa wannii kháw cà? maa
1SG know COMP today 3SG AUX.INFER DIR.come

知覚構文では、「見る/聞く/知る」などの動詞の後に補文標識を伴って知覚した内容を述べることができる。

4-19 彼は自分(のほう)が勝つと思った。 【引用文中の再帰】

(1) kháw khít wâa tuaeɛj cà? chaná?
3SG think COMP oneself AUX.INFER win

(2) kháw khít wâa tua kháw cà? chaná?
3SG think COMP self 3SG AUX.INFER win

引用文中の再帰の表現では、/eɛj/「自身」が文の主語に対しての前方照応となる。

4-20-a 私は(コップの)水(の一部)を飲んだ。 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

(1) chán cìp náam
1SG sip water

(2) chán cìp náam pay nítnuɔj
1SG sip water DIR.go a bit

4-20-b 私は(コップの)水を全部飲んだ。 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

chán kin náam (con) mòt kêew
1SG drink water (until) exhausted CLF.cup

一部分もしくは全体に及ぶ動作の違いは動詞を使い分けるか、/nítnuɔj/「少し」や/kêew/「コップ一杯」という語で補足情報として表される。

4-21 彼は肉を食べない。 【恒常的な否定文】

kháw mây [kin/thaan] núa sàt
3SG NEG eat meat animal

恒常的な否定文の場合は、否定辞/mây/を動詞の前に付ける。随意的な否定文と同じ構造になることに留意されたい。

4-22-a 今日は寒い。 【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

(1) wanníi nǎaw
today cold

(2) wanníi rúusùk nǎaw
today feel cold

(3) wanníi aakàat nǎaw
today climate cold

「今日+寒い」もしくは「今日+気候+寒い」という構文を取る。

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。 【感覚述語・非人称文／斜格主語】

(1) chán rúusùk nǎaw yanṅay kôo mây rúu
1SG feel cold somehow LNK NEG know

(2) chán wâa man nǎawnǎaw
1SG think it cold

主観性を表す場合、「感じる」や「思う」という動詞を用いる。感じる主体が主語の位置に来る。

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。 【（感情主体が受動的である）感情述語】

chán [tòk/plèek/pralàat]=cay thîi hěn khon yó? mâak
1SG surprised=heart PREP.in see person many very

「驚いた」感情の主体が主語となり表される。

4-24 雨が降り始めた。 【現象文・現場での直接体験】

fôn tòk (à)
rain fall (PTCL)

直接体験を表現する文では特別な標識を必要としない。

4-25 この本はよく売れる。 【中間構文】

nǎṅsūuu níi khǎay dii
book this sell well

中間構文は、自動詞文と全く同じ語順・形式になる。ここでは、/khăay/は目的語を取らず、「売れる」という性質を表しているといえる。「この本」は、特定の一冊の場合「本+類別詞+この」という構造になるが、通常、本は同じ内容のものが複数売られているため、同じ性質の複数のものであることを「本+この」の構造で表すことにも留意されたい。

3. おわりに

以上が今回収集したタイ語のヴォイスとその周辺のデータである。

謝辞

タイ語文の作例やそれらの表現の記述に関して、コンサルタントの T.S さん、スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン先生、峰岸真琴先生から非常に多くのアドバイスをいただきました。心より感謝申し上げます。

略号一覧

例文のグロス表記に使用した略号は以下の通りである。

1 一人称	first person	INDF 不定代名詞	indefinite
2 二人称	second person	INFER 推量	inferential
3 三人称	third person	LNK リンカー	linker
ASP アスペクト	aspect	NEG 否定	negation
AUX 助動詞	auxiliary	NUM 数詞	numeral
CAUS 使役	causative	PAST 過去	past
CLF 類別詞	classifier	PL 複数	plural
COMP 補文マーカー	complementizer	PLN 地名	place name
COP コピュラ	copula	PSN 人名	person name
DIR 方向動詞	directional	PTCL 小辞	particle
HON 敬称	honorific	SG 単数	singular
IMP 命令	imperative		

参考文献

- ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2015. 「日本人タイ語学習者の発音問題と指導方法に関する一考察」『東京外大 東南アジア学 第20巻』. pp-37-55.
2016. 『表現を身につける初級タイ語』 東京：三修社
2017. 『表現を広げる中級へのタイ語』 東京：三修社

執筆者連絡先：kasasaku.norifumi.r0@tufs.ac.jp

原稿受理：2021年12月21日